

9月 Sep
2020

唐院工業団地が大きくなります! /



特集

企業誘致

人に選ばれる、企業に選ばれる川西町を目指して

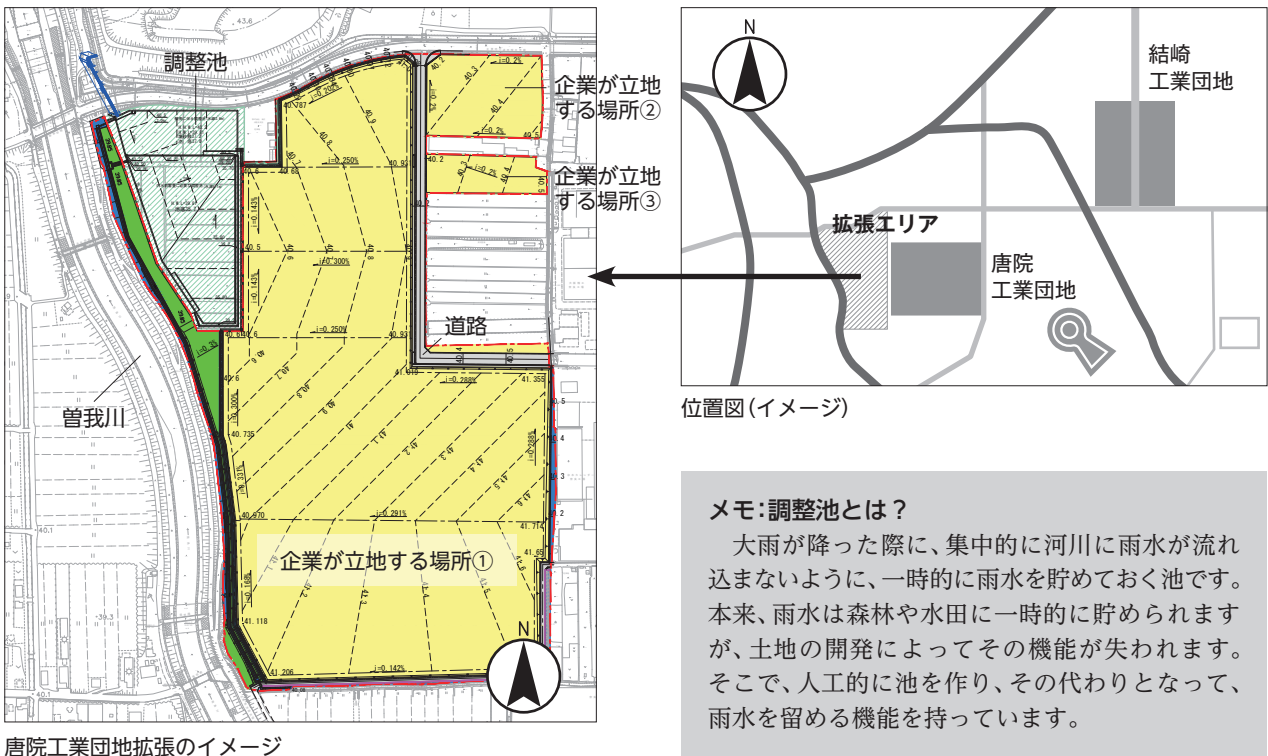
※イラストはイメージです。実際とは異なります。



特集

人に選ばれる、企業に選ばれる 川西町を目指して

問 総合政策課 ☎0745(44)2213



唐院工業団地拡張のイメージ

小していくことにつながります。また、町内でお金を使う人が減ると、商業施設やサービス業が撤退（閉鎖）します。道路環境などの整備が後回しになることも予測されます。不便で住みにくい町になると、若者や子育て世代が転出し、さらなる人口減少を進めるという悪循環が生まれます。川西町では、これらの問題の解決策の一つとして「企業誘致」に目を付けました。

企業誘致で町に 税収と活力を！

平成30年度の決算※では、住民からの収入が約6億2千万円に対し、企業から約4億8千万円の税収があり、町の行政サービスの貴重な財源となっています。人口が1万人未満の川西町が、法律で定められている以上の行政サービスを提供できているのは、企業からの税収があることが大きな要因です。一方で、住民個人から納めてもらう税収は、今後減少していくことが予測されます。新たな企業の誘致

川西町には2つの工業団地、結崎工業団地と唐院工業団地があります。これらの工業団地には、約20社の企業が立地しています。企業が立地すると、地域に税収がもたらされます。また、企業は製品やサービスを生み出し利益を得ますが、地域にとっては、雇用や仕事をもたらす存在でもあります。

現在、町では唐院工業団地の西側に、新しく企業を誘致できる環境整備や、そこへの企業誘致の活動を行っています。今年7月には、唐院工業団地の拡張部分に2社の立地が決まりました。

今月号では、町の企業誘致の取組みや、誘致活動から見える町の特色などを紹介します。

人口減少・少子高齢化で 町が衰退？

企業誘致は、「税収の確保」「町の活性化」「雇用の創出」といった効果を狙って始まりました。その背景には、このままだと「行政サービスが維

は、減少していく町の収入を補填し、行政サービスを維持することにつながるといえます。

さらに、企業が立地すると、通勤や取引での町に訪れる人が増えます。このように地域に訪れる人の数を交流人口といいます。交流人口が増えると、道路などの周辺環境の整備や、コンビニなどの民間サービスの進出などの効果が期待され、まわりまわって住民生活の向上にもつながります。

また、地域の雇用や立地企業と地元事業者との取引が生まれることも期待されます。働く人にとって、職場と住まいは密接に関係しています。通勤のしやすさは住まい選びに大きな影響をあたえます。「通勤しやすい」「職場に近い」場所に住みたいと思う人も多く、実際川西町の住民のうち、約1千人が川西町内で仕事をしています。雇用の確保が、町への定住につながる可能性もあります。

このように企業誘致の効果は、税収の確保による行政サービスの安定だけでなく、

町の存続をかけて 企業誘致

1

持できない」「町が衰退していく」という危機感がありました。

20年前、川西町の人口は約9千500人でしたが、現在は約8千500人となっています。将来の推計では、10年後には約7千人、20年後に約6千人にまで人口が減少していくことが予測されています。人口の内訳も、若い人の割合が下がり、高齢者の割合が上がり続けます。このような人口減少・少子高齢化は全国の自治体が抱える課題でもあります。

人口減少・少子高齢化が進むと、町に入ってくるお金（税収）が減少します。税収（町の収入）が減少すると、必要最低限以上の行政サービスも縮

人やお金の流れを生むことで町を衰退させないという側面もあります。そこで、川西町では平成28年から企業誘致の活動を加速させていくことになりました。

▼川西町の税収(各年の決算)

10万円単位を四捨五入しています。

		住民からの税収	法人からの税収	歳入全体
10年前	平成22年度	6億2600万円	4億6800万円	38億4800万円
5年前	平成27年度	6億1100万円	5億10万円	45億1400万円
一昨年	平成30年度	6億2500万円	4億8400万円	47億3400万円

法人（企業など）からの税収は、景気などによって変動はありますが、町の収入の約10%を占め、町の収入の下支えになっています。
※町民税・法人住民税・固定資産税の合計です。軽自動車税やたばこ税は含んでいません。

唐院工業団地 を拡張

奈良県との連携で 誘致体制を強化

製造業を中心とした企業の誘致活動は以前からも行っていて、平成22年には結崎工業団地に藤田珈琲株式会社の誘致に成功しました。その後、平成23年度に唐院工業団地周辺を町の工業ゾーンとして位置づけることが決定、平成24年12月には、唐院小学校の跡地に株式会社奈良日野自動車誘致することができました。

平成25年には、唐院工業団地を拡張するエリアを確定し、翌年に奈良県の「工業ゾーン創出プロジェクト」に参加、県との連携を開始しました。平成29年には、奈良県と「工

業ゾーン創出に関する連携協定書」を締結し、連携体制を強化しました。県との連携によって、企業が立地しやすい環境整備や、立地場所を探している企業の紹介などをしてくれています。

地元住民の協力と 企業へのセールス

これらの取組みと並行して、立地場所の地権者への協力交渉や周辺住民への説明を行ってきました。地権者の中には、「先祖代々の土地を手放すことを望まないけれど、町の発展のために協力しよう」と言ってくれる人もいました。また、周辺地域には「水田がなくなることで、住環境が悪化するのでは」と心配する人もいます。意見を取りまとめてくれた自治会や住民個々のご理解やご協力によって、今回の企業誘致につながったといえます。

また、町長のトップセールスや町職員の誘致活動によって、約30社の企業と面談することができました。面談できた企業には、町の交通アクセ



上:企業立地セミナーで川西町の魅力を説明
(令和元年11月)
下:立地協定(令和2年7月)

企業に選ばれる まちづくり

企業が立地しやすい 町を目指して

用地の調整や誘致活動と同時進行で「企業から選ばれる立地環境づくり」にも取り組んできました。立地を考えている企業にはそれぞれのニーズがあります。出荷先や従業員の通勤、関連工場との連携など、様々な条件で立地する場所を決めます。

平成24年、川西町の価値を高めることができました。西名阪自動車道の大和まほろばスマートインターチェンジ(名古屋方面)開設です。平成26年には大阪方面の出入口が開設され、住民だけでなく町

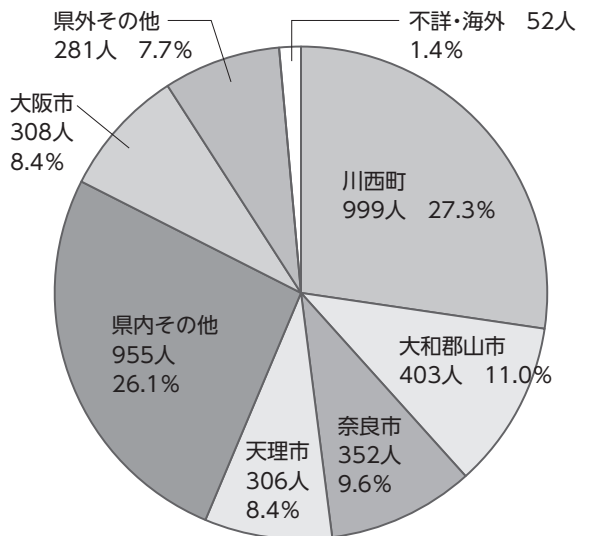
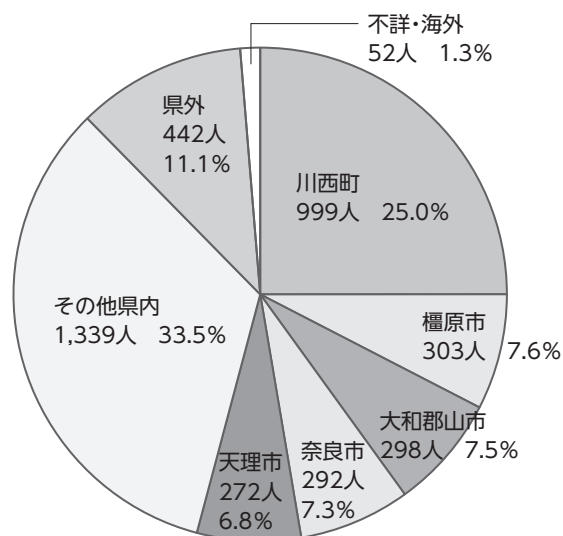


奈良県との協定(平成29年9月)

数字で見る川西町③ 町内在勤者の住所

県内外からも働きに来る場所

平成27年国勢調査
町内の事業所で就労する人:3,997人



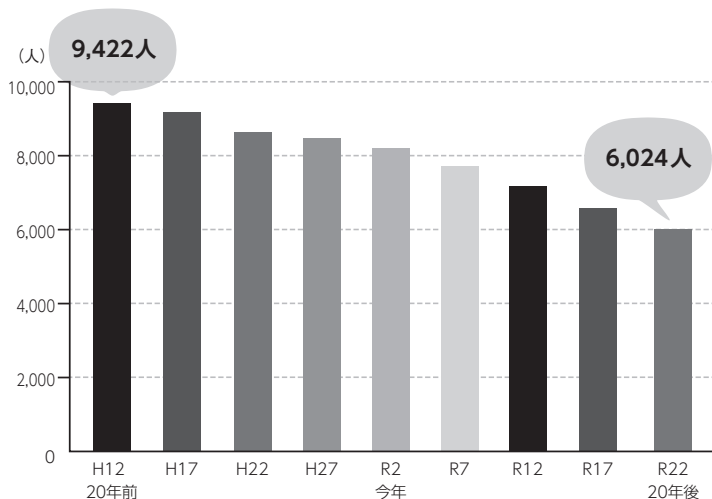
平成27年国勢調査
就業している住民:3,656人

数字で見る川西町② 町民が働く場所

働く人の1/3が町内で就労

数字で見る川西町① 川西町の人口

40年間で人口が2/3になる予測です



H12~H27:国勢調査(各年10月1日現在)
R2~R22:国立社会保障・人口問題研究所
「日本の地域別将来推計人口(平成30年推計)」

メモ:工業団地の歴史

昭和30年代後半、高度経済成長によって日本産業全体の工業化が進みました。奈良県内でも、工業団地をつくり住民の所得水準の引上げを目指す動きが活発になってきました。川西町では、奈良県土地開発公社によって、昭和41年から唐院工業団地の分譲を開始、昭和48年には結崎工業団地の分譲が開始されました。名阪自動車道(昭和44年開通)、国道25号線に近く、近鉄結崎駅など通勤が便利であったため、大阪などから機械や印刷などの工場の進出が相次ぎました。昭和40年代は、結崎団地や結崎南団地などの開発も始まった時期です。川西町が大きく町の形を変えようとしていた時期であったといえます。川西町は、伝統産業や地元企業だけでなく、工業団地とともに発展してきたという側面もあります。

内の企業にとっても、都市圏へのアクセスが向上しました。この他にも、南北では京奈和自動車道や大和中央道などの整備が進み、今年3月には、唐院工業団地の西側の県道が河合町方面に開通しました。また、近鉄結崎駅は住民だけでなく、川西町に立地する企業にとっても町の玄関となっています。現在進めている駅周辺の整備は、住民生活を豊かにするためだけでなく、立地企業の通勤を便利にするための事業でもあります。このように道路や交通施設の整備が進むのは、その地域にそれだけ交通へのニーズがあるからといえます。交通へのニーズは住民生活から生まれるものもありますが、企業活動によって生まれるものもあります。出荷や物流、通勤など、町内の企業からも多くの交通量が発生しています。交通量が増えると、高速道路や国道・県道への投資も進みます。昨今の、交通環境の整備は、これまでの企業立地の効果と、これからの企業立地を進めるための投資といった側面もあります。

住民生活との調和

企業誘致の過程で、企業側から「周辺住民の住環境に迷惑をかけたくない」といった意見がよく聞かれました。住環境に配慮して、周りに住宅がない環境に立地しても、工場の周りに後から家が建つこともあるようです。

このような企業の心配を軽減するために、川西町の都市計画を見直しました。都市計画とは、町のあるべき姿を設定し、そのために必要な規制や整備を行うことです。市街化を進める場所、市街化を抑制する場所などを区分けしたり、お店などの商業施設を集約する場所、工場を集約する場所などを設定します。

令和2年1月、唐院工業団地を含んだ立地エリアを「工業専用地域」に設定し、環境配慮型の工業団地をつくるために地区計画を設定しました。工業専用地域に設定することで、工場を建てることのできる反面、住居や学校・病院などは建てることはできなくなります。これにより、町内で、住民の生活空間と製造業は集中するエリアを分ける

ことができ、住環境の保全と企業の立地促進が両立できるようになりました。だからといって、環境については何もしないのではなく、地区計画で制限を設定することで環境配慮型の工業専用地域になるようにしています。今後も周辺環境の適切な保全は、企業と町とが連携して考えていくことに変わりはありません。

企業のリスクを減らす

工業専用地域は海岸沿いの工業地域に設定されていることが多く、通勤環境しやすい

名阪自動車道によって大阪圏・名古屋圏へのアクセスがいい

すでに工業団地があり、まとまった工業用地を提供できる

JRを利用することで大阪圏からも通勤アクセスがいい

奈良県内のどこからも通勤できる

誘致活動で評価された川西町の強み

❶ 川西町に立地を決めた理由は？

弊社は大阪府八尾市に位置しているため西名阪自動車道沿いは非常になじみがあり、奈良県には得意先様もいらっしゃるため立地を決めました。また、土砂崩れや津波等のリスクも少ないことにも魅力を感じました。

❷ これから目指す企業像は？

食品の安全を担うフィルムパッケージを環境に配慮した資材をできるだけ使用し、製造することにより、皆様のご家庭に安心して食を届けることができる企業です。

❸ 立地する工場では、何を作る予定ですか？

主として、食品の包装資材、フィルムパッケージを製造する予定です。完成品としては、ロール品・製袋品様々なものになります。

❹ 川西町への立地のきっかけは？

新工場をどこに立地しようかと思案していたときに、川西町が工業団地を新たに造成するという情報をインターネットでみつけたこと。

❺ 社内での川西工場の位置づけは？

弊社にとって川西工場の位置づけは、本社も含めて点在している工場を1つにまとめるため、基幹工場です。

新規立地企業インタビュー②

株式会社昭和特殊印刷社

スーパーなどでも目にする食品のパッケージを印刷・製造する企業です。



企業名	株式会社昭和特殊印刷社
所在地	大阪府八尾市木の本3-4
代表者	代表取締役 垣内一三
業務内容	フィルムへの印刷、製袋、スリット業
企業ホームページ	http://showatokusyu.co.jp/

新規立地企業インタビュー①

林一二株式会社

冷菓の「センタン」ブランドでおなじみの企業です。



企業名	林一二株式会社
所在地	大阪市東成区東今里3-10-28
代表者	代表取締役 林一良
業務内容	乳製品製造業(アイスクリーム)、プラスチックフィルム製造業
企業ホームページ	http://www.hayashikazuji.co.jp/

❶ 川西町に立地を決めた理由は？

弊社は大阪に本社を構え、奈良県内には大和郡山市、天理市に工場があります。交通の利便性が高く全国への出荷に便利なことと、工場間の連携が取りやすい立地に魅力を感じました。

❷ これから目指す企業像は？

モノやサービスが生まれては消える昨今。わたしたちは一人でも多くの人に「必要だ!」「気に入っている!」そして「いいね!」と選択していただけるようなモノやサービスを提供するために、常に時代の先端を見定めてチャレンジしつづける企業でありたいと思っています。

❸ 立地する工場では、何を作る予定ですか？

センタンのブランドで冷菓(アイスクリームなど)を展開しています。川西町に立地予定の工場でも冷菓を製造する予定です。

❹ 川西町への立地のきっかけは？

毎年のように猛暑が続いています。お客様が欲しいと思ってくれるときに、弊社の製品が売場に並んでいるようにするため、製造ラインの強化を考えておりました。そんなときに、私たちの条件に適した規模と便利な場所を兼ね備えた川西町の誘致活動を知りました。

❺ 社内での川西工場の位置づけは？

弊社の主力製品である氷菓製造の基幹的な位置づけとなる予定です。

町の農業の発展のために



任期満了に伴い、新たに選任された川西町農業委員会委員への任命書が附与されました。

川西町では2月に候補者の公募・推薦を受け付け、町議会第2回定例会(6月議会)で同意を得て、このたびの任命となりました。

農業委員の皆さんは、今後3年間、農地法関係の審査、相談業務、農業環境の保全推進の他、担い手への農地集積・集約による農地利用の最適化の推進に努められます。(関連ページ → 14ページ)

長寿のお祝い

7月訪問

100歳おめでとうございます



川西町では、毎年100歳を迎える人に記念品を贈り、ご長寿をお祝いをしています。

今回、竹村町長が今年6月に満100歳を迎えた吉田久二さんに長寿のお祝いを贈りました。今後も、ますますお元気で過ごされることを願っています。

町のアルバム

川西町公式Facebook・Instagramから、気になる写真をピックアップしました。

町のSNS・動画



川西町公式Facebook

<https://www.facebook.com/kawanishi.nara/>



川西町公式Instagram

https://www.instagram.com/kawanishi_official/

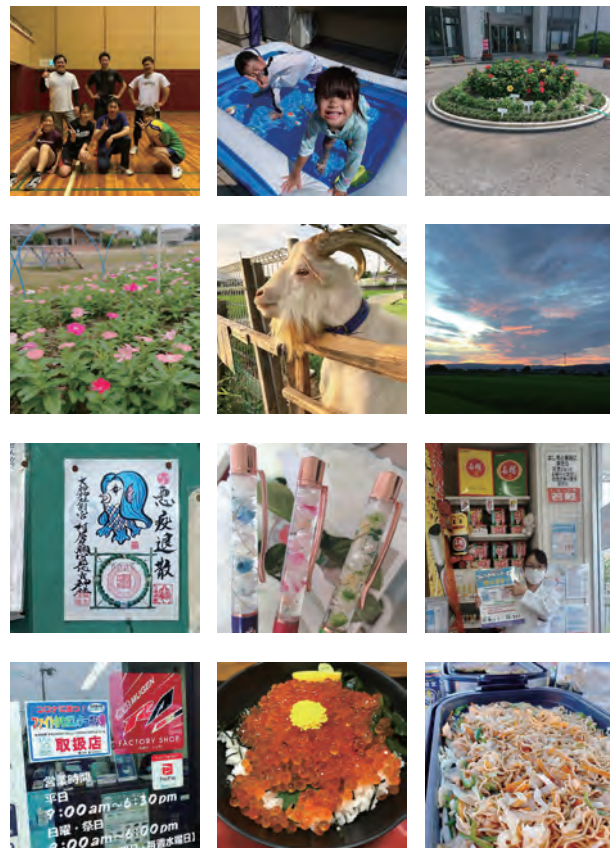


川西町公式YouTube

https://www.youtube.com/channel/UC8enD9Eo_OfkCixEzQ6r8ng



Instagram「#ちかい町かわにし」で投稿しよう



▼これまでの取組み(主なもの)

平成22年	株式会社藤田珈琲を誘致
平成23年	地権者アンケートを実施
平成24年	株式会社奈良日野自動車を誘致
平成25年	唐院工業団地周辺地域の境界確定を実施
平成26年	奈良県との連携を開始
平成28年	地権者説明会・地権者の意向調査
平成29年	町議会に工業ゾーン創出特別委員会を設置
	奈良県と協業ゾーン創出プロジェクト協定を締結
	企業への需要調査
平成30年	地権者説明会
令和元年	企業募集開始
令和2年	工業専用地域に指定(市街化編入)
	立地企業の審査(2月)
	企業との立地協定を締結(7月)

▼今後の予定

令和2年	対象エリアの造成工事を開始
令和4年	造成工事の工事完了
	立地用地を企業へ引渡し
	工場建設
令和6年	操業開始

オーダーメイド方式による用地の販売(区画を指定して販売するのではなく、企業のニーズに合わせてオーダーメイドで分譲する販売方法)など、企業が立地の申込みをしやすい工夫をすることで、リスク回避に努めました。

高め、「まとまった工業用地を提供できる」体制を整備することで、企業の誘致活動に取組んできました。

今後、造成工事(今は水田となっている場所を、工場が建てられる土地にする工事)を行い、令和4年に立地企業に引き渡すこととなります。

その後、企業が工場を建設し、令和6年ごろから工場が稼働する予定です。また、企業を誘致して終わりではなく、今回立地する企業に限らず、町

内で働く人が通勤しやすい、働きやすい環境をつくっていくことも続けていかなければなりません。

新しく町に立地してくれる企業も、これからは川西町の一員です。住民が、町内の企業で作られた製品を町の自慢として感じられるように、今後も広報「川西」等で、企業誘致・立地の進捗、立地するところで生じる周辺整備や災害対策、企業の活動内容などを紹介していく予定です。

町長あいさつ

町長就任時より、町の2大事業の一つと位置付け、推進してきました企業誘致事業が、立地企業も決まり、いよいよ大詰め段階に入りました。

まずは、工業ゾーンに該当する土地の提供にご同意頂きました地権者の皆様、その他事業推進に係る皆様に感謝申し上げます。

全国の市町村と同様、川西町においても人口の減少が進展する中、将来にわたってまちの活力を維持するには、住民が安心して働き、生活を営むことができる魅力あるまちであることが必要で、これまで各種施策を実行してきました。

企業誘致事業は、その施策の中の一つではありますが、地域の雇用機会の確保、町の税収の確保、地元企業・経済への波及効果、交流人口拡大による地域の活性化など、様々な、そして大きな効果を今後もたらすことが期待できます。

令和2年9月

川西町長 竹村匡正



この企業誘致を契機として、川西町がより一層活気のあるまちとなるよう、町民皆さんがより一層安心して暮らせるよう、引き続き尽力してまいります。

これから、工業団地整備のための造成工事が本格的に始まりますが、町民皆さんのご理解ご協力をよろしくお願い申し上げます。

油掛地蔵がテレビで紹介



「日本の轍(わだち)」(関西テレビ／8ch)という番組で、油掛地蔵と太子道(筋違道)が紹介されます。この番組は、日本各地にある道の歴史を紹介するもので、道先案内人(ナレーター)を俳優の仲村トオルさんが担当します。

8月8日、現地で油掛地蔵保存会会長の南浦弘美さんが取材に応じました。

放送は9月22日、午後9時54分～10時。放送日時・内容が急遽変更となる場合があります。

コロナ終息を願って



今年の地蔵盆は新型コロナウイルスの影響で、簡素化・縮小して行われました。それでも、これまでと同様「五穀豊穰」「住民の安泰・健康」に加えて「新型コロナウイルスの早期終息」を祈願しました。

油掛地蔵保存会会長の南浦さんは「いろんな意見がありましたが、今年の地蔵盆は見学や参加を自粛してもらいました。毎年地蔵盆を楽しみにしてくれている人もいます。コロナが終息し、来年はいつもの地蔵盆ができるようになってほしい」と語っていました。

献血へのご協力を

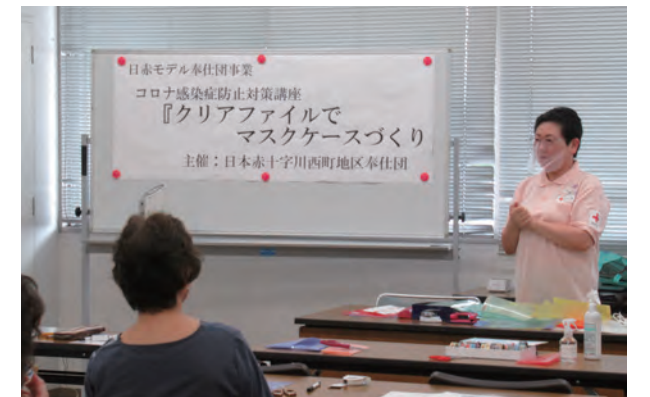


役場を会場として、献血が行われました。35度を超える猛暑の中、川西町赤十字奉仕団の皆さんが広く献血への協力を呼び掛けてくれました。今回の献血では23名にご協力いただきました。

献血で集められた血液は、さまざまな病気の治療に使われており、そのおかげで多くの人の生命が助かっています。なかでも、がん治療に使われることが多く、輸血全体の約40%を占めています。

今後も献血へのご理解とご協力をお願いします。

マスクケースづくり



文化会館で、コロナ感染症防止対策講座「クリアファイルでマスクケースづくり」(主催:川西町赤十字奉仕団)が開催されました。

今では手作りマスクもすっかり定着しました。手作りできるのはマスクだけではありません。外出するときに、予備のマスクを入れておくのに便利なマスクケースも手づくりできます。今回はクリアファイルを材料としたつくり方が紹介されました。

短歌

心重く 新聞手にして 雨雲の
晴れるを祈る 七月の朝 岡野 淳子
二上山に 沈みゆく陽を 遠く見る
わが白壁を 茜に染めて 松井 純代
いつの間に 早苗伸びしか 遠く続く
みどり濃くなる くんなかの田は 片山 眞由美



心をつなぐ花火



今年の川西サマーフェスタは残念ながら中止となりました。サマーフェスタは地元有志で組織される実行委員会が運営しています。そんな実行委員会のメンバーが「毎年楽しみに待っている人に何か届けたい」と話し合った結果、花火を打ち上げることになりました。

この日、わずか5分程度でしたが、川西の夜空に色とりどりの花火が打ち上がり、実行委員会のSNSでも配信されました。

平和の尊さを再確認



文化会館エントランスで、写真パネルの展示を行いました。写真パネルは、立命館大学国際平和ミュージアムから借りた「ヒロシマ・ナガサキ原爆と人間」。75年前、原子爆弾を投下された広島・長崎の様子などを伝えるもので、30枚のパネルが並びました。

原子爆弾の悲惨さを生々しく伝える写真は、平和の尊さや戦争の残酷さといった、風化させてはいけない現実を伝えるものでした。

これからの町づくりのために



総合計画は、川西町の行政運営の方向性を示したものです。川西町では、毎年この総合計画に基づいて適切に行政運営が行われているかをチェックし、設定された指標(目標値)が達成できているかなどの評価・検証を行っています。

検証会は、大学教授などの学識経験者や関係団体の会長、関係官庁に参加をお願いし、意見・助言を求めています。